

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人 曾根ひかり学園

認定こども園 曾根ひかり幼稚園

1. 本園の教育目標

教育基本法等の幼稚園教育に関わる根拠を踏まえ、仏教（浄土真宗）の教えを心のよりどころとし、次のような幼児像を求めることで心身ともに調和のとれた健全な幼児を育成する。

- ・ 明るい子…人と仲良くし、誰とでも遊べる子
- ・ たくましい子…衛生的で健康な子
- ・ 強い子…はきはきと自分の考えを言える子
- ・ 幸せな子…家族を大切にし、感謝の気持ちを忘れぬ子

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ① 地域との交流を深め、地域に拓かれた幼稚園を目指して取り組んでいく
- ② 異年齢交流の中で子どもと教師が共主体となる保育を考える
- ③ 食への意識を高め、食事の大切さを感じ取りながらもいのちのつながりに気付く

3. 評価項目の取組指標・成果指標

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見など	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
① 地域との交流を深め、地域に拓かれた幼稚園を目指して取り組んでいく	地域の人達と交流する事で、自分たちが住んでいる曾根の町について知る	4	隣接する郵便局に訪問する事で、どのような仕事をしているのかを知り、感謝の気持ちを持つ	4.0	4	地域の人と交流する事で幼児が地域の中で生活している事を理解できるようになった	4.0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との交流は今年度深められ、園の周辺の施設やお店に興味を持ち、知る事ができている。地域の中で生活して、地域に拓かれた園作りを一步進められた。 ・ 幼稚園周辺のマップ作りを行い、どのような施設やお店があるのかを知った上で、地域の方との交流を進めていった。特に郵便局や花屋さんとの交流が深まり、子ども達自らが喜びながら活動に参加するようになった。 ・ 交流ができそうな事を考え、無理なく行っていた。園からも近い場所ということもあり、子ども達は身近な郵便局で交流をしながら、その役割を知る事ができた。 ・ 子ども達も地域との交流を楽しく感じる事ができ、互いに良い関わりができた。
		3	園の周辺にどんな施設やお店があるかを知り、興味を持つ		3	幼児が郵便局に興味・関心を持ちながら喜んで交流するようになった			
		2	園の周辺の散歩や園外活動の時に地域の方と挨拶を交わす		2	幼児が幼稚園の周りにどんなお店や施設があるのかを知る事ができた			
		1	地域の人との交流活動はどんな事があるのかを考える		1	幼児が地域との交流を楽しみ、すすんで挨拶等をおこなうようになった			
② 異年齢交流の中で子どもと教師が共主体となる保育を考える	子どもの主体と保育者の主体がバランス良く共存して、学び合う関係を構築する	4	子ども達の意見のもと、遊びが主体的に発展していくようにする	2.5	4	子ども同士がアイデアを出し合い、遊びを主体的に発展させていくようになった	2.8	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動があまり密に実施できなかったものの、子ども達のグループ意識や仲間意識は育ったと思う。主体的に進められるまでには行きつかなかった為、次年度も引き続きこの重点目標・評価目標で取り組んでいきたい。 ・ 異年齢交流の時間外でも、年長と年中児が満3歳クラスと一緒に遊びを進める姿が多く見られ、楽しい時間を過ごしていた。 ・ 年間計画を立てておかないと、行事に押されて活動を入れにくいと感じた。行事の見直しと改善が必要である。 ・ 異年齢の友達とのかかわりを持つ事で、興味を持ったり互いに名前を呼び合うようになってきた。また、年長児は最上学年としての自覚が少しずつ芽生えていった。
		3	子ども達が発言しやすい雰囲気を作り、子ども達の声に耳を傾ける		3	異年齢交流の中で、自分の思った事を自分の言葉で表現するようになった			
		2	グループ活動の中で、触れ合い遊びを通して仲が深められるようにする		2	年齢に関係なく友達に興味を持ち、幼児同士の距離が縮まった			
		1	設定した異年齢活動以外にも、自由遊びの中で一緒に遊べる時間を設ける		1	日常遊びの中で、異年齢の友達と関わろうとする姿が見られるように合った			
③ 食への意識を高め、食事の大切さを感じ取りながらもいのちのつながりに気付く	野菜や果物の栽培や園の給食を通して、いのちの素となる食べ物に興味を持つ	4	「赤」「緑」「黄」の3つの部屋の区別を知り、それぞれの部屋の食と体の関係を考える	3.7	4	園と家庭とが連携をとり、家庭でも食事の大切さを話すようになった	4.0	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物一つひとつに「いのち」があるという事を感じ、「いのち」を頂く事に感謝の気持ちを持つようになった。 ・ 三食食品群を知り、食べ物の働きを考えていった事で、バランス良く栄養を摂るといった子ども達の意識が高まったようだ。 ・ 園全体で同じ三食食品群の教材で取り組んだ。どのように子ども達に伝えていけば良いのかを職員全員で考え合う事で、共通した伝え方ができた。 ・ 各学年で野菜を育てて収穫をしていたが、他学年にもおすそ分けをしたり、給食室で献立の中に入れてもらったりして、興味を持ちながら食べようとする姿が見られた。 ・ 給食の時間の「赤」「黄」「緑」の理解が深まり、意欲的に分類する姿が見られた。家庭への発信に関してはもう少し深めていきたいと反省が残る。
		3	給食室の横の遊戯室で学期に1度給食を食べ、調理員さんや栄養士さんと接する		3	週に1～2回程度、給食のメニューから「赤」「緑」「黄」の3つの部屋の食べ物を探す事を楽しむようになった			
		2	絵本や紙芝居やペーパーサート等を通して食の大切さを知る		2	食材にもいのちがあることに気付き、苦手な物も食べられるようになった			
		1	園内で野菜や果物を育てる活動を通して興味・関心を持つ		1	子ども達が食材の生長や収穫に興味を持ち、食への意識が高まってきた			

4.総合的な評価結果

評価	評価の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で共通の三色食品群の取り組み「栄養列車」をしたことで、食への意識が子どもも保育者も高まり、園全体が同じ目標に向かって進む事ができた。子ども達は食の大切さに気づく事ができていた。今後も取り組みを続け、さらに保護者にも発信して家庭と一緒に「食べ物が健康な体を作っていく」という意識を高めていけたらと思う。 ・異年齢でのグループ活動が少なかったが、昨年度からの経験で異年齢での関わりの楽しさを知っている子どもが多く、行事や園庭遊びで一緒になった時には自ら関わろうとする姿が見られ、またそれを十分に楽しむ事ができていた。 ・重点目標についての取り組み経過を職員間で話し合う事により園全体で同じ指標に向かって取り組みをしていく事ができた。園内研修でも「今どうなのか？」を職員間で見つけ直し、共有し合いながら取り組みを深めていった。そうする事で、職員全体で意識を高めることができ、園の保育・教育の向上にもつながっていると感じている。 ・未満児クラスは勤務の都合で保育者が参加できなかつたり、子どもの年齢が低くて全体の活動に取り組みにくかつたりした。未満児クラスは無理に参加するのではなく、一人ひとりの意欲・態度・心情を育てていく事で次にスムーズに向かえると思う。取り組み指標の中からクラスでできそうな事を見つけながら参加し、同じ目標の中で保育する事をこれからも心掛けていきたい。以上児・未満児関係なく全職員が理解していく事が大切だと感じる。 ・近隣の郵便局・花屋・小学校・中学校・市民センターなどの施設を知り、地域社会に対する関心や理解が深まった。これらの活動を継続していき、さらに地域に根ざした教育を実現することが期待される。地域との交流を深めていく事で、子ども達も身近にある施設の新たな発見や気づきができたり、地域の人に興味を持つようになって進んで挨拶等をする姿が増え、積極性が高まったと感じる。

5.今後取り組む重点課題

課題	具体的な取り組み方法
地域との交流を深め、地域に拓かれた幼稚園を目指して取り組んでいく	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を深め、子ども達の姿を見てもらったり、地域の人と触れ合ったりする中で子ども達の育ちを共に喜び合えるようにする ・自分たちが住んでいる町に興味を持てるように地域で仕事をしている人・生活している人、又地域の文化・自然に触れる機会をつくる
幼児期の性教育やジェンダー問題について触れながら、体や健康や安全の事、そして自分らしくあることの大切さを伝えていく	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や保育教材を使って、子ども達に「プライベートゾーン」や「性の違い」を伝えていく ・子ども達に指導した内容を保護者にも発信し、園と家庭とが共通理解しながらつながっていくようにする
食への興味関心を高め、食といのちのつながりを伝えながら健康に生活できる子ども達を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き三色食品群の取り組みの「栄養列車」で給食の食材を分類しながら、どれも大切な栄養だという事が理解できるようにする ・朝から元気に登園する為には何を気をつければ良いのかを子ども達と考えていき、日々の生活を整えていく気持ちを育てる ⇒ 健康カルタを作成し、体のメカニズムを遊びながら習得していけるようにする

6.学校関係者評価委員の方の評価・ご意見

- ・12月のマクドナルドでの中学生刺殺事件以降、防犯に対しての意識が変化している。日頃から注意しないといけない事を保護者に伝えて欲しい。小学校に入学して、5月6月の1・2年生の交通事故が多い。入学前に通学路を親子で一緒に歩きながら危険な所を確認して欲しい。
- ・保育参観の時間を共有させてもらい、自分自身は時間に余裕があるのでゆっくり見ていて楽しかった。しかし、働いている保護者は仕事を割いて参加しているので、タイムスケジュールは守った方が良かった。
- ・公開保育では、曾根ひかり幼稚園の子ども達がとても伸びやかにはつらつとしているのを感じた。自分らしく動いている。
- ・食育活動は健康な子ども達を育成する為にもとても大事である。全てのクラスで同じ指導で進めているという事で、次の学年になっても継続しやすいと思う。
- ・市民センターも季節によって展示しているものが変化していったりしているので、ぜひ遊びに来て下さい。
- ・保護者に向けての絵本の読み語りはとても良かった。学童保育でも絵本の読み方を取り入れていて、とても大切な事と実感しているので続けて欲しい。
- ・曾根地区には「コミュニティースクール」というものがあり、地域のゴミ拾いや老人会への参加等を積極的にしているので、幼稚園もぜひこれを活用して欲しいし、その為の協力は行っていく。

《学校関係者評価委員 による学校評価の流れ》

	日 時	内 容
1	令和6年5月1日(水)	学校関係者評価委員会発足
2	令和6年5月10日(金) 10:30~11:30	年長クラスの公開保育 及び評価
3	令和6年6月12日(水) 10:30~11:30	年少クラスの公開保育 及び評価
4	令和6年11月9日(土) 9:00~12:00	運動会の観覧 及び評価
5	令和7年1月27日(木) 10:30~11:30	年中クラスの公開保育 及び評価
6	令和7年2月27日(木) 11:00~12:00	学校関係者評価委員会会議 ・評価委員と幼稚園園長と懇談会 ・令和6年度のまとめと評価 ・園の今年度の重点目標の評価 ・次年度の課題

学校関係者評価委員 (曾根市民センター館長) _____ 印

学校関係者評価委員 (中曾根自治会会長) _____ 印

学校関係者評価委員 (小倉南交通安全協会役員) _____ 印

学校関係者評価委員 (保護者会 前年度会長) _____ 印

学校関係者評価委員 (保護者会 今年度会長) _____ 印

学校関係者評価委員 (保護者会 今年度会長) _____ 印